

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度学力調査から、全国平均より上回ってはいるものの、正答率が43.8%の「書くこと」の領域、同様に、正答率が43.8%の「情報の扱い方に関する事項」の領域に対しての課題が特にあると考えられる。無回答が20%以上いる。また、学習活動調査から、「新聞記事を読んでいる」「勉強に辞書を利用している」児童の割合が全国平均と比較して、低いことが分かる。
- ・漢字の読み書きをはじめ、言語知識の理解、言葉における基礎・基本の未定着が見られる。
- ・物語文における「読むこと」の領域で、場面の様子や登場人物の行動を具体的に想像することが苦手な児童が多く存在する。

2. 課題改善に向けた取組状況

- (1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容
- ・辞書を活用したり、書く機会を増やしたりしていく。
 - ・言葉や漢字など言語の知識理解を図るためのドリル学習を推進する。
- (2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等
- ・時間を確保して、漢字の習得や国語辞書を使う機会を学級全体で取り組む。
 - ・作文や日記指導を定期的に設け、書く機会を増やす。
 - ・物語文や説明文の学習時における読前後の感想文の交流機会を設ける。また、教科書教材と関連させて本や文章を読むことを位置付ける並行読書をすすめていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①日頃から辞書を引かせる習慣を身に付けさせる。時間をかけて漢字学習の徹底を図る。
- ②自分の考えを説明したり書いたりする機会をさらに増やす。

＜検証方法＞

- ①国語辞書で分からない言葉を辞書で引かせてノートに書かせる。ノートを提出させ確認をする。
- ②初発の感想、学習後の感想は必ず書かせ、交流機会を設け、確認する。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・感想の交流機会を増やすことで、自分の考えを相手に伝えることをすすんで楽しくできるようになった。
- ・漢字学習を繰り返し行うことで、国語辞書を引く児童も多くなり、抵抗感がなく取り組むことができた。

＜課題＞

- ・漢字学習が漢字の知識・技能、語彙力の向上につなげることができなかった。
- ・自分の意見を順序立てて、分かりやすく正確に書く力が十分でなかった。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・言葉や漢字の知識・技能、語彙力の向上が必要である。
- ・はじめ、中、おわりなどを意識させながら、書く機会をさらに増やしていく。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・知識、技能における基礎基本を理解した児童

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小笠原村に関連することだけに限定せずに、一般的な社会的事象への興味関心、知識技能を高める必要がある。 ・社会科における学び方、問題解決的な学習を理解する必要がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わたしたちの小笠原」だけではなく、教科書を使って補充を行う。 ・小笠原以外の学習で、映像や具体物を使った学習を行う。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業はじめに時間をとって、地図帳を使っての日本や世界の都市、地名、名称などの学習を取り入れ、一般的な社会的事象に対して興味関心を誘う。 ・全単元のはじめに、学習問題を考え提示し、それを解決するために学習をすすめていくことを定着させる。 ・私たちの住む小笠原村の学習を中心に行うが、発展的に内地の様々な地域の様子も紹介する。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>① 地図帳や教科書の活用の機会を設ける。</p> <p>② ノートやICTの活用方法の提示。自分で調べまとめ解決する学習方法の定着を図る。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①授業の中で、必要に応じて活用しているかを確認する。</p> <p>②単元ごとにノートを回収し、学習状況を把握する。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>① 地図帳や教科書の活用の機会を設ける。</p> <p>② ノートやICTの活用方法の提示。自分で調べまとめ解決する学習方法の定着を図る。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①授業の中で、必要に応じて活用しているかを確認する。</p> <p>②単元ごとにノートを回収し、学習状況を把握する。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>① 地図帳や教科書の活用の機会を設ける。</p> <p>② ノートやICTの活用方法の提示。自分で調べまとめ解決する学習方法の定着を図る。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①授業の中で、必要に応じて活用しているかを確認する。</p> <p>②単元ごとにノートを回収し、学習状況を把握する。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図帳をたくさん活用することで、地名等を調べる楽しさ、意欲の向上につながった。 ・「わたしたちの小笠原」だけではなく、教科書を活用することで、一般的な社会的事象に対する興味関心が深まった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフや資料の読み取る技能。 ・ICT機器を使って、自分で調べまとめる力は十分でない。 ・ノートを分かりやすく、まとめることに個人差があった。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTや資料を使っての調べ学習の機会を増やす。 ・グラフや資料の読み取る機会をたくさん設ける。 ・丁寧な板書指導により、誰が見ても分かりやすいノートづくりを行う。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフや資料を正確に読み取り、自分の言葉で説明できる児童。 			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・ 繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのひき算、かけ算九九といった基礎的な計算を正確に解く力を身に付けさせる必要がある。
- ・ 令和4年度学力調査では、領域「数と計算」「測定」で全国平均を下回っていた。
- ・ より具体的にイメージしやすいよう、既習内容や問題を可視化することが必要である。
- ・ 個人差については個別の支援が必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 具体物の操作を通して、図形の構成を感覚的に捉えられるようにする。
- ・ 作図を通して、頂点や角、辺の関係に着目させ、図形の特徴の理解を深められるようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・ 授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。
- ・ 具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① 基礎的な内容の反復学習を行い、定着を図る。
また、達成度を記録し、把握しておく。
- ② 自力解決とペア学習の時間を多く設け、半具体物や図、言葉を使って解いたり、説明したりする。

＜検証方法＞

- ① 授業の始めに、既習内容の確認を行い、基礎的な力の定着を図る。ペアで既習内容の問題を解き、ペアで正答を確認する。
- ② ペア学習を計画的に取り入れ、自力解決やペア学習でできるようになったことをノートに振り返り、「わかる」「できる」を体感できるようにする。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・ 反復学習を行うことで、基礎的な内容の定着を図ることができた。
- ・ ペア学習を多く取り入れることで、理解を深めることができた。

＜課題＞

- ・ 考えを説明することに苦手意識をもつ児童もいる。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・ ペア学習を実施する時には、事前にねらいを児童に伝える。
- ・ どの時間においても「わかる」「できる」姿を計画する。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・ 粘り強く問題を解く児童の姿。
- ・ 主体的に楽しみながら学ぶ児童の姿。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科における学び方、問題解決的な学習を理解する。 小笠原に関連する地域教材だけでなく、一般的な理科的事象への興味関心、知識技能を高める必要がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって観察、実験を行い、得られた結果を基に考察し、問題解決する学習の流れを定着させる。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての単元において、特に実験領域では、理科における学び方、問題解決型の学習習慣を身に付けさせる。 実物を観察したり、実験をしたりできない教材については、ICT機器を使っての学習補充を行う。 単元ごとにドリル的な学習を入れる。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 毎回の授業、ノート指導で理科における学び方、問題解決型の学習習慣を図る。 ② ICT機器を使って、視覚的に学習内容の確認を行う。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単元ごとにノートを回収し、学習状況を把握する。 ② 単元学習後のテストにおける平均点を分析する。また、解き直しの徹底を図る。 </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 毎回の授業、ノート指導で理科における学び方、問題解決型の学習習慣を図る。 ② ICT機器を使って、視覚的に学習内容の確認を行う。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単元ごとにノートを回収し、学習状況を把握する。 ② 単元学習後のテストにおける平均点を分析する。また、解き直しの徹底を図る。
<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 毎回の授業、ノート指導で理科における学び方、問題解決型の学習習慣を図る。 ② ICT機器を使って、視覚的に学習内容の確認を行う。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 単元ごとにノートを回収し、学習状況を把握する。 ② 単元学習後のテストにおける平均点を分析する。また、解き直しの徹底を図る。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 〈問題・仮説・実験・予想・考察・結論・感想〉といった学習サイクル、問題解決型の学習習慣を身に付けられるようになってきた。 自然の事物や現象に問題を見だし、解決しようとする意識が深まった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 小笠原の地域性にもよるが、分野によっては一般的な事象が自分の事としてなかなかとらえられないこと。 一般的な知識、技能の不足。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 一般的な事物、現象について、徹底的に学習する。問題をたくさん解く。 学習後の復習、テスト終了後の解き直し等をしっかり行う。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>自信をもって課題に取り組める児童</p>			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 音楽科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 ・個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。 ・歌唱や器楽（特にリコーダー）の技能の個人差が大きく、支援を要する児童については特に丁寧に個別指導を行う必要がある。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常時活動でリズムを行うことで音楽の基礎を身に付けることができた。 ・歌唱や鍵盤ハーモニカ活動が2学期のみだったため、今後は基礎・基本を身に付ける必要がある。 <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。 ・曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての気付きを深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴を捉えた表現ができるようにしている。 ・個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <p>①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について気付きを深めたり、それを捉えた表現をしたりすることができるようにする。</p> <p>②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。</p>	<p><検証方法></p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての気付きや表現の工夫について深めることができたか確かめる。</p> <p>②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・読譜指導と並行して楽譜を見て気付いたことを共有する場面を設けたことで、曲の特徴を視覚で捉え、表現に生かす姿が見られた。 ・歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、その後の個別指導に生かすことができ、表現活動への意欲が高まった。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・習得した知識や技能を次の学習に生かすことが難しい場面がある。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択を工夫したり個別指導を重点的に行ったりする必要がある。 ・発言やワークシート等で感じたことや気付いたことを表出する力に個人差があり、選択肢を与えたり個別の声掛けをしたりすることや、ICTを活用することなど手だてを工夫する必要がある。
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>感じたことや気付いたことを生かし、思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりする学習に進んで取り組むことができる。</p>	

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・ 図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・ 道具や材料の基本的な使い方をしっかりと理解し、つまずきなく楽しく活動できるようにする。
- ・ お互いの作品の良いところを参考にしたり、以前学習したことを生かしたりすることができているので、さらにその力を高める。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・ 材料や友達の作品、道具から豊かに発想や工夫を広げる姿が見られる。
- ・ 基礎基本の定着については、個別指導や使用するたびに確認する必要がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・ 材料や道具などの使い方を掲示やICTを活用して確認する。
- ・ 児童作品を紹介したり、幅広く材料や道具などを選べる題材などを設定したりして、自分なりに考えたり、選んだりする活動を増やす。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① 掲示やICTを活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行う。
- ② 自分なりに考えたり、選んだりする場面を増やして、自分でつくりだす力を高める。

＜検証方法＞

- ① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、活動につまずきがないようにする。
- ② 児童や作品観察。そのような場面の時に全児童がある程度自分のつくりたいものに合わせて、自分で考えたり、選べたりできるようにする。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・ 基本的な材料や道具の扱い方を掲示やICTを活用することにより正しく扱うことができていた。
- ・ 自分なりに考えたり、選んだりすることはできていた。

＜課題＞

- ・ 自分でさらに工夫したり、発想したりしてつくりだす力をさらに高めたい。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・ さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示やICTなどを活用して取り組んでいく。
- ・ ねらいや目的などを意識させながら、活動に取り組んだり、材料や道具を扱ったりできるように導入や説明を行う。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

自分で考えたり、感じたりして豊かに表現や工夫する力のある児童

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 体育科〉

1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題

- ・領域によって好きな運動、苦手な運動の偏りがある。運動の特性を理解し、様々な運動に楽しく取り組むことが課題である。
- ・自分の体や動きがどのようになっているのかを意識して学習に取り組む必要がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えられる活動の推進
- ・すべての領域で自己評価と他己評価を行い、課題解決のための工夫や考えを共有していく。

(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等

- ・どの領域でも「楽しい」と思える運動、活動を必ず入れていく。
- ・自己評価と他己評価を1時間の授業のふりかえりとして行う。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ① 1時間の学習の流れを提示し、見通しをもって学習する。
- ② ゲーム領域では、ルールをみんなで考えるなど主体的な学習の展開を図る。

〈検証方法〉

- ① 授業の流れ、めあての提示を授業の始まりに必ず行い、児童と確認をする。
- ② 学習カードを活用して、児童の興味関心の項目を分析する。90%以上楽しさを感じるようにする。

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

- ・様々な運動に意欲をもって楽しく取り組むことができた。
- ・ゲーム領域等で、自分たちで話し合い考え、ルールを変えていくことができた。

〈課題〉

- ・勝敗を受け入れること
- ・思考、判断、表現する力

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・多くのゲームを設け、勝ったり負けたりする機会を増やし、勝敗を受け入れる意識を高める。
- ・自分の体や動きについて理解を深める。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

みんなで話し合い、声を掛け合い、様々な運動に積極的に取り組む児童

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 道徳科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材、資料から、その道徳的価値について、自分事として深く考えられる力を身に付ける。 ・考えたことを実践、実行する力を身に付ける。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・記載なし <p>(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師と児童の1対1の問答にならないよう、児童同士、学級全体で話し合える場を多く設定する。 ・動作化や役割演技を入れる中で、道徳的価値を自分事としてとらえる機会を多くもつ。 ・毎時間、一人で今日の学習を振り返る時間をつくり、その授業の道徳的価値を自分事として理解する。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 教材提示、板書を工夫しながら授業のねらいが視覚的にとらえられるようにする。 ② 「なぜ」「どうして」「自分だったらどうするの」を問答しながら、みんなで考えていく。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 毎時間必ずワークシートを使って児童の思いや考えを確認する。 ② 日頃の生活の中で、道徳の授業内で学んだ道徳的価値について、振り返り、確認をする。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教材を通して、多くの児童が自分の事としてとらえられるようになった。 ・教師だけではなく児童同士、学級全体で話し合いをたくさんすることができた。 ・自分の意見を素直に言える児童が増えた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分事としてとらえられている反面、言葉と行動が一致していない児童もいる。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業だけではなく、日々の生活の中で、道徳的価値を理解させていく。 ・自分の意見を言いたくなかったり、きれいごとな意見が増えたりする傾向がある中で、意見の切り替えしを増やし、本音で意見が言えるような指導を心がける。
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>何事も自分事としてとらえ、道徳的価値を深めていく児童</p>	

〈授業改善推進プラン 令和4年度第3学年 総合的な学習の時間〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・小笠原独自の自然、文化、伝統を学び、その大切さを理解し、継承していこうとする気持ちを養う。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・探究的な学習過程を通して、自分自身で情報を取捨選択し、整理できるようにする。
- ・次世代につながるように自ら進んでまとめていく。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ① 学習ゴールを提示し、それに向かって自分自身や友達同士で、探求し情報を整理しまとめていく。
- ② 毎時間、学習の振り返りを行う。

＜検証方法＞

- ① ワークシートを活用しながら、自分で考えたことを随時まとめポートフォリオ化していく。
- ② 自分たちが学んできたことを下級生や保護者に伝える活動を通して学びの確認をする。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・学習ゴールに向けて、自分自身や友達同士で探求し情報を整理できるようになった。
- ・学習課題について意欲をもって解決しようと努力することができた。

＜課題＞

- ・限られた時間の中で、課題を解決する技能
- ・多くの情報から必要なものを取捨選択すること

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・学習課題に対して、計画的に学習計画を立て、毎時間、振り返りをし、探求的な学習を目指す

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

学習課題にたいして意欲的に取り組む児童